

春播きトウモロコシ「ロイヤルデントT X1235」の熊本県における品種特性

「ロイヤルデントT X1235」(RM105)は多収性及び耐病性に優れ、熊本県における春播きトウモロコシの品種として有望である。

農業研究センター畜産研究所飼料研究室(担当者:北浦日出世)

研究のねらい

販売中、若しくは数年以内に市販される飼料用トウモロコシ新品種を、県奨励品種(「パイオニア108日(34N84)」)と比較し、特性を明らかにすることにより、優良な能力を有する新品種の速やかな普及を図る。

研究の成果

1. 4月上旬に播種した場合、「ロイヤルデントT X1235」の播種から収穫適期までの日数は平均113日で、8月上旬に収穫できる(表1)。
2. 「ロイヤルデントT X1235」は、比較品種と同程度の病害虫への抵抗性と耐倒伏性が期待できる(表2)。
3. 「ロイヤルデントT X1235」は、比較品種と同等の乾物収量が期待でき、本県における飼料用トウモロコシ品種として有望である(表3、図1)。

※比較品種:過去3年間の試験データに基づき、熊本県で奨励品種に指定されている品種

普及上の留意点

1. 生育状況および収量については気象・土壌環境の変化による影響を受けるため、飼料作物栽培基準に準じた播種や施肥管理を行うこと。
2. 令和2年5月14日にツマジロクサヨトウが発生したため、パダンSGを5月14日および5月21日に散布した。防除については、「ツマジロクサヨトウ」防除マニュアル本編(第1版)等を参照し防除を行うこと。

表1 生育特性に関する結果

品種	系統	相対熟度	播種から収穫適期までの日数	初期生育	稈長	着子穂高		着子穂高/稈長
ロイヤルデントTX1235	TX1235	105	113.1	6.2	254.0	120.1	a	47.4%
パイオニア108日	34N84	108	111.9	6.7	241.8	109.8	b	45.5%

- 1) 数値は調査年の平均
- 2) 播種期は、平成29年4月5日、平成31年4月2日、令和2年4月3日。
- 3) 栽植密度は667本/10a、栽培様式は0.75m×0.2m、1区は12m<sup>2</sup>とし3反復で実施した。
- 4) 施肥量は、堆肥300kg/a、N:1.5kg/a、P<sub>2</sub>O<sub>5</sub>:1.5kg/a、K<sub>2</sub>O:1.5kg/a。
- 5) 収量調査は、絹糸抽出期から38日目を目を基準とした。
- 6) 異符号間で有意差あり(p<0.05, T-test)

表2 倒伏性、病害抵抗性に関する調査結果

品種	系統	倒伏	折損	虫害	紋枯病罹病率
		%	%	%	%
ロイヤルデントTX1235	TX1235	0.1	0.0	7.3	24.0
パイオニア108日	34N84	1.7	0.4	4.2	24.2

- 1) 数値は調査年の平均
- 2) 虫害はイネヨトウ・アワノメイガ・ツマジロクサヨトウによる倒伏・折損
- 3) 試験ほ場は、連作により紋枯病が発生している。
- 4) 品種間で有意差なし(p<0.05, T-test)

表3 乾物収量に関する調査結果

品種	系統	乾物茎葉収量	乾物雌穂収量	総乾物収量	総乾物率
		kg/a	kg/a	kg/a	%
ロイヤルデントTX1235	TX1235	94.4	88.3	182.7	29.2% <sup>a</sup>
パイオニア108日	34N84	86.0	100.8	186.8	30.9% <sup>b</sup>

- 1) 数値は調査年の平均
- 2) 異符号間で有意差あり(p<0.05, T-test)

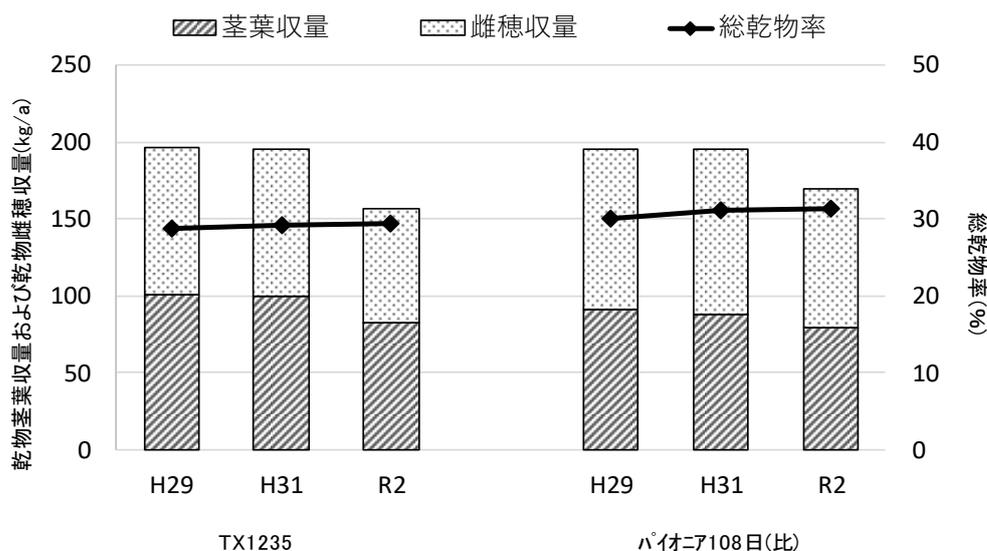


図1 品種ごとの3カ年の茎葉乾物収量、雌穂乾物収量および乾物率